



茨木市立東中学校

生徒指導通信 令和4年5月16日

根気よく、主体的に学ぼう ・ 自分も周囲の人も大切にし、行動しよう ・ 自分と向き合い、進路を切り開こう

SNS の危険性～ネットトラブルの事例から考える～

1 はじめに

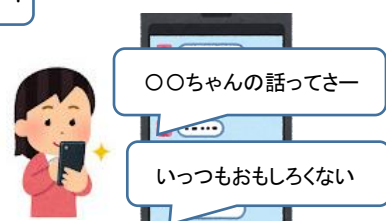
インターネットやスマートフォンは、安全に正しく使うことができれば役立つ便利なものですが、誹謗中傷やいじめの温床になったりするなど、悲しい事例もあります。また被害を受けるだけでなく、加害者になってしまうケースも生じています。

茨木市では小中学校への携帯電話（スマートフォン）の持ち込みをガイドラインで禁止しています。しかし、学校外では今後SNSと関わることはより一層多くなることが想定されます。今までに色々な場面で、SNS の危険性について考える機会があったと思いますが、ここでは実際に起きているトラブルの事例に触れ、「自分は大丈夫」という気持ちを持たずに、「どうしたら危険を回避できるか」を改めて考えていきましょう。

2 ネットトラブルの事例

（１）いじめ・人間関係

事例 1



Aさんは仲良しグループのトーク画面で、メッセージの最後に「？」をつけ忘れたまま送信してしまったことに気づかず、眠ってしまいました。



目が覚めてスマホを見ると、「ひどい！」などのメッセージが。誤解を解こうとしても、反応なし。Aさん以外のメンバーは別のグループを作りAさんを外したのです。

“SNS いじめ”とはSNSを通して苦痛を与える行為を指します。特徴は、複数で1人のことを追い詰める、比較的短時間でエスカレートする、発言を無視する、嫌がらせの写真や動画を共有する、グループから外す（または新たなグループを作り会話を移動）などに加え、「ステメ※」や「ストーリー」を悪用した嫌がらせも起きています。これらは人目につきにくく発見が遅れ、周りが気づいた時には事態が深刻になっているケースが多いです。

文面だけの会話では、相手の声色や表情がわからず、気持ちが伝わりづらく、対面であれば気にならない一言でも嫌な気持ちになる原因となります。

※ステメ：ステータスメッセージの略で、メッセージアプリのプロフィール欄に書ける一言メッセージのこと。

（２）学校生活への影響

事例 2



グループトークで友人とやり取りをするのが大好きなCさん。すぐに返さないと無視扱いされたりノリが悪いと思われるりしそうで、いつも夜遅くまでスマホを使ってしまいます。



朝起きるのがつらくなり、眠たくて授業にも集中できなくなりました。体調や成績にも影響が出ていますが、スマホを使う時間を短くできません。

事例 3



修学旅行を控えているDさん。班で行き先を決めて回る班別行動を楽しみにしています。明日班員4人で行程の話し合いがあります。



翌日、登校すると班別行動の行先がすでに決まっていた。Dさん以外の3人はグループトークで昨日のうちに行き先を決めてしまっていました。

事例 4



実行委員に立候補したEさん。役職に就くためには、決意表明の投票でクラスの過半数の票が必要です。Eさんは、何人かに投票してほしいとメッセージで呼びかけました。



翌日の投票では、クラスの過半数の票が入り、実行委員になりました。しかし、Eさんにはモヤモヤした気持ちが残りました。

近年、常にSNSのメッセージが気になって学習に集中できない、無視扱いされるのが嫌で眠れない、など日常生活に支障をきたすだけでなく、健康面にも影響が現れるケースが多く出ています。学校行事や受験など「いざ！」というときに後悔しないよう、使う時間や場所を決めるなど、スマホ利用を自制する力を育てましょう。

また、重要な決定をSNS上でしてしまうことで不公平な状況が生まれてしまうなど、プライベートの枠組みを越えて学校生活に影響を及ぼしているケースもあります。学校生活での決め事を中立な立場の人間がいるとは限らないSNS上ですることは決して公正公平とは言えません。重要な決定や学校生活に関わることは、しかるべき場所と時間で行うことがルールであり、マナーです。

(3) SNS 投稿による個人情報の漏洩・犯罪被害及び加害

事例5



グループ内に知人の写真を面白半分で許可なく送信したFさん。しかし、少しやり過ぎてしまったと思い、メッセージを削除しました。



トーク履歴からは削除できましたが、写真を保存していたグループのメンバーが違うグループに写真を送信。瞬間に写真は拡散されました。被害をうけた知人から「一生残る…どう責任をとってくれるのか」と訴えられました。

事例6



Gさんは最近ストレスがたまっていました。ストレス解消のつもりで日時と場所を指定し「〇〇を袋叩きにしよう」と SNS に匿名で投稿。もちろん実行する気などまったくありませんでした。



投稿を読んだ人が警察に通報し、警察はパトロールすると共に掲示板への書き込みの記録などを調査。Gさんの投稿と判明したことから、自宅に警察が…。

事例7



Hさん、Iさんは、制服でコンビニに立ち入り、大はしゃぎで写真を撮影。仲間に見せようと思い、SNS にアップしました。



アカウントに鍵を付けていましたが、スクリーンショットが拡散されたことで、個人が特定されて学校名や名前がさらされ、SNS 上では炎上。警察にも通報が。

事例8



Jさんは SNS 上に自撮りの写真を投稿したり、ダンスの動画を投稿したりしています。多くの人からもらった「いいね！」やコメントをチェックするのが毎日の楽しみです。



下校中から塾の帰り道までずっと誰かに後をつけられました。原因はJさんが投稿した写真や動画の背景です。場所が分かり生活範囲が特定されてしまいました。

“不特定多数”に写真や動画を見せれば、傷つけたり誰かに傷つけられたり、トラブルや犯罪に巻き込まれる可能性があります。「ピースサインの指紋」まで判別できるようになった現在のカメラ。「瞳に映った景色」を地図情報の風景写真と照合、近くで待ち伏せして後をつけ自宅マンションを突き止め、投稿動画に映った室内の様子などから部屋番号まで割り出したというストーカー事件もあったようです。

また「デジタルタトゥー」と称されるほど、ネットに刻まれた情報は半永久的に残ります。メッセージアプリでのトークを含めて、一度 SNS 上に投稿したものは削除できても、画像保存されたもの全てを消すことは不可能です。例えばアカウントに鍵を付けているから、知り合いにしか見られないから大丈夫と思っていても、瞬間に拡散される可能性があります。また、自分の投稿を削除してもスクリーンショットや画像保存されていればデータとして残り続けます。SNS 上に発信するということは全世界に発信しているのと同じです。未来の自分を苦しめないよう、正しい判断をしましょう。

そして、SNS 上で知り合った人と実際に会ったことで犯罪被害に巻き込まれる事件も発生しています。SNS 上で性別や年齢を偽り、言葉巧みに近寄ってくるという事例もあります。大人であれば、日本全国移動するのに数時間しかかりません。

3 保護者のみなさまへ

SNS やオンラインゲームでのトラブルは全国で後を絶ちません。冒頭に触れた通り、楽しく便利な側面もありますが、一度のめり込むと抜け出せないという依存性も持ち合わせています。また、子どもたちが被害を受けるだけでなく、加害者になってしまうケースも生じています。

スマートフォンの使用状況は周りからわかりづらく、トラブルが発生した場合は、重大事案になるまで気づかないという問題もあります。タブレット配布に伴い、学校でもネットモラルの指導をしていますが、各ご家庭でルールの確認と徹底を改めてお願いします。具体的には、利用する時間や場所に関する約束を決めたり、フィルタリングを利用したりするなどの対策が挙げられます。

フィルタリングは青少年を違法・有害情報との不用意な接触から守り、安心・安全にインターネットを利用する手助けとなるサービスです。冷静さを欠いたアクセスに適度なブレーキをかけるだけでなく、見た目ではわかりづらい悪意の仕掛けがあるサイト等へのアクセスを防ぐツールです（SNS に起因する犯罪被害児童の9割以上がフィルタリングを設定していなかったというデータもあります／警視庁調べ）。携帯電話業者はじめ各社がフィルタリングサービスを提供しており、年齢や家庭のルールに応じてカスタマイズすることも可能です。

生徒一人一人が学校でも家庭でも安心・安全に生活ができるようにご協力をお願いします。

4 参考

『インターネットトラブル集』総務省 2022

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/trouble/

『中高生の間で起る LINE トラブルまとめ スクショ拡散、グループいじめも』高校生新聞 2021

<https://www.koikouseishibun.jp/articles/-/7646>